

公益社団法人 日本アロマ環境協会 (AEAJ) 熊谷 千津

1. はじめに

化粧品産業において、香料は長きにわたり必要不可欠な要素として認識されてきた。賦香の主な目的は、製品に付加価値を与え、ハロー効果に寄与させること、もう1つは、基材由来の不快感をマスキングすることで使用感に寄与させることである¹⁾。商品から得られる五感を刺激する経験は、ブランド・ロイヤルティを構築する上で重要な要因であり、センサリー・ブランディングという概念が普及している²⁾。また、最近では、植物から抽出した精油を用いたアロマセラピーの普及に伴い、香りの嗅覚刺激作用による機能性を付加した香料の開発事例も増加している³⁾。香りは、製品のアイデンティティを確立し、ブランドイメージを強化する上で中心的な役割を果たすだけでなく、製品と消費者の感情的な結びつきを深める触媒としても機能している。

近年、香料がヒトの心理に与える直接的および間接的な影響に関する科学的研究は顕著に増加している。この関心の高まりは、香料が気分⁴⁾、感情⁵⁾、認知機能⁶⁾、さらには社会的行動⁷⁾に影響を及ぼすという認識に基づいている。消費者は、保湿やアンチエイジングといった物理的な機能的便益だけでなく、心理的ウェルビーイングや自己認識の向上に貢献する化粧品を求めるようになって

ている。このような消費者のニーズの変化は、化粧品に配合される香料成分がヒトの心理に与える作用と効果について理解を深め、活用することの必要性を示している。この分野の研究は、単に心地よい香りを提供するという従来の概念を超え、香料を心身の健康をサポートする機能性成分として位置づける可能性を秘めている。

2. 目的と方法

本稿は、化粧品における香料の心理的效果に関する国内外の査読付き研究論文を包括的に調査することを目的とする。具体的には、一般的に使用される香料、特に天然香料「精油」の心理的效果を分析する。さらに、香料の心理生理学的応答分野の研究における方法論的課題についても議論する。香料の心理的側面に関する最新の科学的知見を提供し、効果的で消費者ニーズに応える製品開発への示唆となることを目指す。

3. 結果

化粧品に配合される香料は、合成香料か天然香料かを問わず、その全体的な香りのプロファイルを通じて消費者の気分、感情、認知、自己認識に広範な影響を及ぼす。これらの効果は、製品の魅力度や使用満足度を大きく左右する要因となる。

リラックス、ストレス軽減、ポジティブ感情の誘発

香料は、ヒトの気分や感情の反応を誘発することが広く知られている⁸⁾。また、香料が誘発する心理状態は、顔の魅力判断に対して強力なクロスモーダル効果を及ぼすことも知られている⁹⁾。さらに、フローラルな香りは、不安や抑うつ症状を軽減することで、精神的・感情的な状態を改善する可能性が示されている¹⁰⁾。これらの研究は、香料が単なる心地よさを超え、特定の感情状態を積極的に変調させる作用を持つことを裏付けている。

3.1. 合成香料の心理的効果

化粧品には天然由来の香料だけでなく、多くの合成香料が用いられている。合成香料も天然香料と同様に嗅覚を介して心理面に作用し、リラックス効果や気分の高揚などをもたらすことが知られている。例えば、人工ムスクの香りの吸入は、被験者の緊張・不安や疲労感を有意に軽減し、気分状態を改善したとの報告がある¹¹⁾。

3.2. 化粧品における天然香料の心理的効果

天然香料は、複雑な化学組成ゆえ合成香料にはない特性を有することから、化粧品の分野でも注目を集めている。本稿では、精油に焦点を当て、心理的効果と関連する科学的エビデンスを検討する。

3.2.1. 精油の心理的効果

精油は、植物の様々な部位から水蒸気蒸留や圧

働きかけ、魅力を高めることが期待されている。

特定の精油の心理的効果

様々な精油が、異なる心理的効果を持つことが研究により示されている。以下に、化粧品にしばしば活用される精油と日本産精油の一部を紹介する。

- ラベンダー油**：シソ科のラベンダーの花から抽出されるラベンダー油は、アロマテラピー分野でよく知られた精油であるが、抗うつ作用¹⁵⁾、リラックス作用、睡眠の質¹⁷⁾を高める作用があることが示唆されている。
- ティートリー油**：ティートリー油は、オーストラリア原産のフトモモ科の常緑樹（ティートリー）の葉から抽出される精油で、抗菌作用¹⁸⁾、抗炎症作用¹⁹⁾など幅広い薬理作用を有する。また、臨床研究では、ニキビ²⁰⁾や光老化²¹⁾などに優れた有効性が示唆されている。
- ユズ油**：日本産精油で広く活用される柑橘精油のユズ油は、嗅覚刺激により副交感神経活性化²²⁾作用が報告されている。また、月経前症候群に悩む20代女性を対象とした研究では、ネガティブな感情を軽減²³⁾したとの報告があり、月経前症候群の改善に有用である可能性が示唆されている。
- ローズオットー油**：バラ科のダマスクローズの花弁から抽出されるローズオットー油は、精油率が低く高価格で流通する天然香料で、

これ以降の閲覧を希望の場合は、本誌をご購読ください。